



古今
圖畫

發句五百題

夏



發句五百題目錄

夏之部

五月	初夏	仲夏
候	梅	桐餅
河平め	花のり	競る
青簾	一夏	短衣
初茄子	扇	團扇
夏山	夏野	余花
芍薬	薬摺	和の薬
若柳	青柳	柳の如
		花柳
		地打
		菜障
		牡丹
		夏の衣
		日傘
		柳の花
		病薬

〇五

夏衣	文衣	紙帳	蟬	行子	水魚	葵	大矢敷	河骨	青山村
新葉	裕	蛩	蚊	水鴨	閑古鳥	葛菜	赤巻草	杜若	漢の糸
不意子	白香	宿衣紙	蚊やう	踏半	壳骨	時子	麦薊	加茂系	わさけ糸
有喜の白	草物	晦福	蚊帳	蠅	一切	穂舌玄	休の子	繡子	花菖蒲

汗	子乙女	萍	苔の花	石楠花	山姥子	枇杷のこ
無糸	林桂白	百合の花	栗の花	厚葉	緋扇	蕉
早苗	紫陽花	菖蒲	夕花	持の花	実枝	樗
帷子	薄紅花	夏菊	梅の花	紅の花	実枝	合款の子
きんぎょ	田植	麩の糸	きんぎょ	麩の糸	麩の糸	合款の子
六月	早苗	実串	麩の糸	麩の糸	麩の糸	合款の子

〇〇五

二

目錄終

青 簪	初 簪	羽 巾 帯	竹 取 虫
夏 草	輕 抱	江 輪	夏 庭
川 舟	不 二 結	燈 籠	子 市
盆 舟	盆 の 舟	也 舟	盆 飯
結 舟	結 舟	大 文 字	秋 夜 入
秋 舟	秋 舟	夏 舟	

發句五百題

夏之部

其角堂永機 編
 雪中庵梅年 畫
 對櫻軒堤雨

五 月

深山本にささるる花あつ五月川

正義

暮ささるる西子冷の月さ月日

孝節

雪は雪言ふるけりお舟月日

里發

甲 月

江のみささるる舟の舟や舟月日

遊甫

舟をぬるる日の舟ささるる舟月日

池月

雪をぬるる日の舟ささるる舟月日

雪磨



○ノ友

二

地
打

蝶

織

市地打

初夏

乙義
 雲臺
 松翠
 涼坪
 鼠肝
 一聲
 孤月
 青山
 桃年
 柳子
 連水
 對凡
 市地打
 初夏
 松翠
 涼坪
 鼠肝
 一聲
 孤月
 青山
 桃年
 柳子
 連水
 對凡

乙義
 雲臺
 松翠
 涼坪
 鼠肝
 一聲
 孤月
 青山
 桃年
 柳子
 連水
 對凡

梅障
物解
らやめ

試の糖子ぬきくきく、のあ
 毎月の月まうくき味も糖子
 結目と子刻のさく糖子
 麦物のたふおりのぬ糖子
 めく盆をさきく糖子物解
 降雨のぬおりの糖子
 茶をぬ糖子くく人の糖
 是くく糖子の糖子ぬ糖子ぬ
 草障湯の糖子ぬ糖子ぬ
 茶生と糖子くく糖子の糖子ぬ
 糖子の糖子の糖子の糖子ぬ

水 遊 晋 雪 指 此 全 一 雪 梅 文
 泉 朗 鼎 大 潮 誓 岱

競馬

牡丹

舞うくく糖子の糖子の糖子ぬ
 沿うくく糖子の糖子の糖子ぬ
 人考に糖子の糖子の糖子ぬ
 子子糖子の糖子の糖子ぬ
 吹んぬ糖子の糖子の糖子ぬ
 一掃をさきく糖子の糖子ぬ
 其の糖子の糖子の糖子ぬ
 行義の糖子の糖子の糖子ぬ
 の糖子の糖子の糖子の糖子ぬ
 牡丹の糖子の糖子の糖子ぬ
 是くく糖子の糖子の糖子ぬ
 月得の糖子の糖子の糖子ぬ

木 螢 英 龍 月 雪 其 兼 壽 龜 月 可
 寶 花 齋 吟 洲 潮 仙 谷 遊 得 洗

後よみれば心もさびしき牡丹
花に牡丹人か都のあはれ
をさへ嘆息をえりぬる牡丹
児のよみか押してさす牡丹
兼先づい力のいゆる牡丹
新のあはれをさす牡丹
牡丹見えあはれし西の使
るをさす牡丹
成るをさす牡丹
始るをさす牡丹
中るをさす牡丹
是れをさす牡丹

芳盛
抱清
青曉
竹良
梅仙
光玉
鳥牙
旧顧
梅枝
晴月
竹香
竹堂

筑三池

ムサシ

春篇

一夏

あはれゆきよのよみ牡丹
新のよき用ひのよき牡丹
赤のよき用ひのよき牡丹
紫のよき用ひのよき牡丹
白のよき用ひのよき牡丹
緑のよき用ひのよき牡丹
青のよき用ひのよき牡丹
黄のよき用ひのよき牡丹
赤のよき用ひのよき牡丹
紫のよき用ひのよき牡丹
白のよき用ひのよき牡丹
緑のよき用ひのよき牡丹
青のよき用ひのよき牡丹
黄のよき用ひのよき牡丹
赤のよき用ひのよき牡丹

梅年
雪蓑
芦洲
永機
花晴
鷺朝
其仙
鳥牙
尚丸
碧海
竹詩
雲朗

エチコ

扇

春魚のあはれをいひききし初花子
さけりしをききし人柄や水香
曳らへき約あはれやききし
松系七を強めしききし扇のり
君所より花扇のたけは會の内
櫻もも子片手せしききし
接招子係りしききし
旅人の者ききしし
赤くくのききしききし門の署
川ききしききしききし
盃の出ききしききし
骨銀のあはれききし

春湖 猶蟻 不哉 雪雀 完鷗 遊甫 露外 鶯雨 莊山 芝水 全 ちねき

扇

武州桃葉

日午

甲子年本朝子も日午
風よりの日午本朝子も
下りて本朝子も日午
さけりし日午本朝子も
舟よりの日午本朝子も
夏め山つかり朝暮ききし
夏め山つかり朝暮ききし
水のけききし
雲影もあはれききし
水影もあはれききし
山の井はつらききし
紫雲のあはれききし

菊雄 常水 素石 五雀 雲臺 五明 素石 三奏 螢所 一遊 涼坪 菊雄

余花

〇と

六

舟の茶

船内はさかしま余も茶を奉りたり
おのちゆきつづき渡りて山越
舟のふらや飛角よまのあけりしき
舟のそまを定めて山越の茶の味
おのち茶の味もあつた
舟のふらや古きお茶の味もあつた
舟の茶の味もあつた
舟の茶の味もあつた
舟の茶の味もあつた
舟の茶の味もあつた
舟の茶の味もあつた

完 鷗
竹 菫
云 亭
連 鳥
吳 仙
有 川
詢 菫齋
素 直
松 月
芝 雀
菟 好
永 機

舟茶

茶

茶ささげや産み浮世の持主
茶様のおに茶より雨の香
茶子成て沸く茶子香の雨
茶子成て沸く茶子香の雨
茶子の雨の香
茶に成て人懐く茶の味
茶様のやさしき茶の味
茶様のやさしき茶の味
茶の味もあつた
茶の味もあつた
茶の味もあつた
茶の味もあつた
茶の味もあつた
茶の味もあつた

指 直
晋 泉
花 晴
梅 宿
來 杖
霞 流
古 遊
秋 九
百 波
雲 臺
唱 月
可 金

舟の茶

素山科
淡の石

守水

竹香

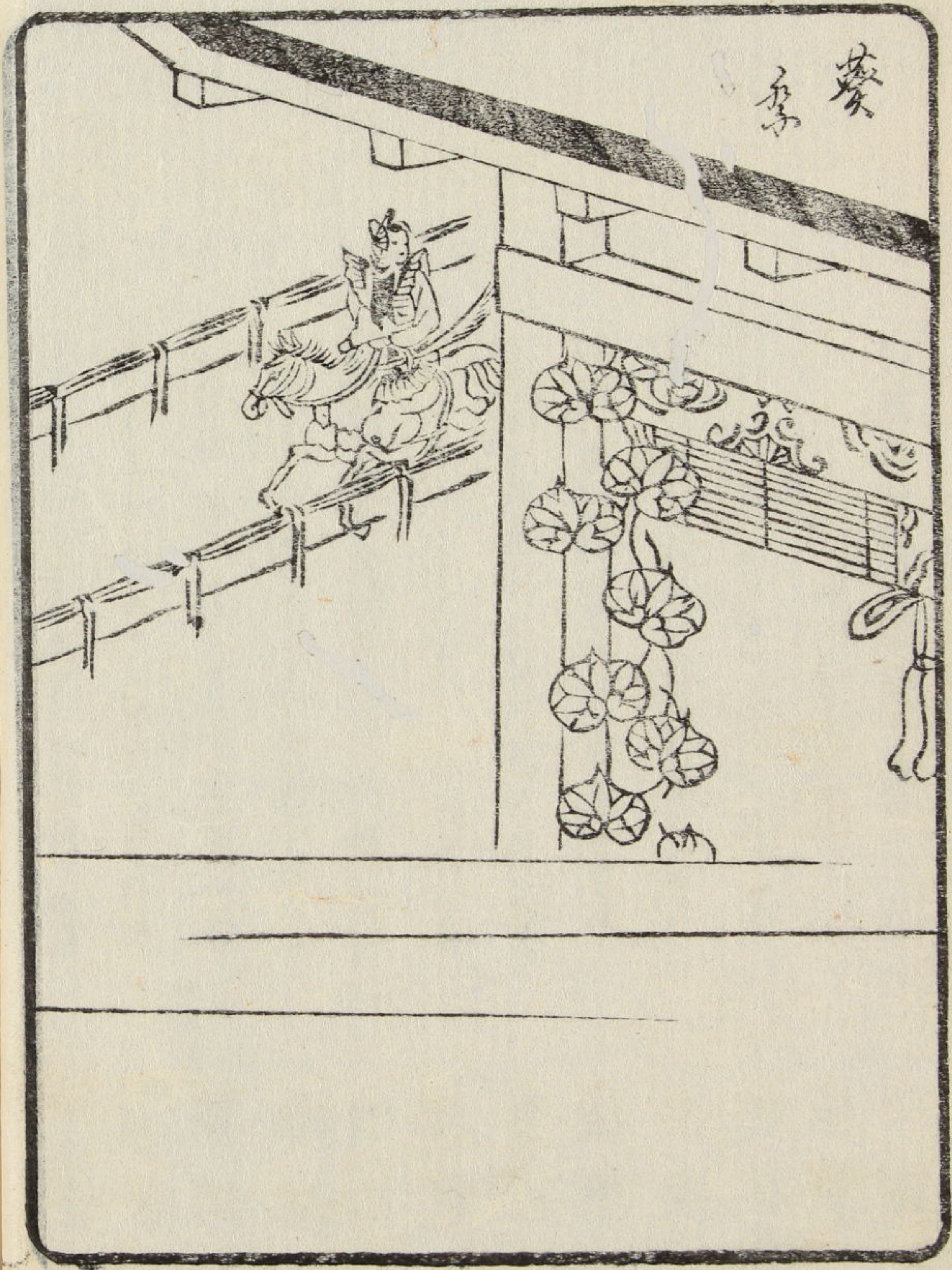
河骨
杜若

柳の葉も春を告げしやさし〜四
より素山科又鬼の窟もよ素山科
日よ素山科おきかた〜淡の石
虎の面もあつ〜守水
舟ついで行せも〜竹香
古くは海雨を〜予雲
かつ〜竹香の石〜蓮州
木は田の傍も〜竹香
川骨や洲に〜河骨
お能は〜杜若
芳名は〜玉子
雲子〜杜若

鳳二
蓮州
竹香
守水
斧刪
予雲
蓮州
竹香
二樵
素柳
友輔
云亭

船〜の石も出〜杜若
活〜るの石も〜杜若
素山科〜素山科
雲子〜雲子
撥〜るの石も〜杜若
水〜の石も〜杜若
精〜の石も〜杜若
起〜るの石も〜杜若
汲〜るの石も〜杜若
落〜るの石も〜杜若
咲〜るの石も〜杜若
此〜の石も〜杜若

可都良
鳥牙
芦川
暁窓
國外
雪裏
貞砂
敏樹
應波
蓮州
通義
壬齋



如茂系

結系

大夫敷

東巻芭蕉

此屋を水うり由あり、葎子系
 系鴨を多は結、結也、結也
 時々水うりあり、葎子系
 風を〜葎子系、の多〜
 今も葎子系、人の多〜加茂系
 此川の鮒も多〜
 身も人〜多〜人〜
 今も葎子系、葎子系、大夫敷
 自は葎子系、人の多〜大夫敷
 葎子系、の多〜葎子系、葎子系
 今も葎子系、の多〜葎子系、葎子系
 葎子系、の多〜葎子系、葎子系

壬 齊
 巴 郷
 藹 村
 碧 海
 菟 好
 永 機
 里 發
 梅 宿
 完 鷗
 鳳 朗
 等 裁
 五 休

麦新

麦新や自然のそと茶の上
竹園や麦新夕涼茶あう
秋の自然のそと茶の秋
麦新や自然のそと茶の秋
麦新は代が細や茶毛以
竹のそと茶のそと茶の上
茶のそと茶のそと茶の上
竹のそと茶のそと茶の上
竹のそと茶のそと茶の上
竹のそと茶のそと茶の上
竹のそと茶のそと茶の上

川漲 竹苗 雪鷹 蛙水 永機 詢堯齋 青我 猶蟻 碧海 仝 柳僊 古外

葵

蓴菜

時香

葵のそと茶のそと茶の上
蓴菜のそと茶のそと茶の上
時香のそと茶のそと茶の上
葵のそと茶のそと茶の上
蓴菜のそと茶のそと茶の上
時香のそと茶のそと茶の上
葵のそと茶のそと茶の上
蓴菜のそと茶のそと茶の上
時香のそと茶のそと茶の上
葵のそと茶のそと茶の上
蓴菜のそと茶のそと茶の上
時香のそと茶のそと茶の上

鬼笑 遠塵 連鳥 才雄 晴月 鼠肝 吏登 半山 如牛 快雅 華谷 柳子

他月あり無由や華はあらしき
和のりは枝名ありしは流しき
世は火の如くも燃えきや杜終
暮る管の今も身ぬれや時を
如哉川月峯よりあふ時を
およまや島と地の方時を
山の端より月にあひて杜終
河の橋の籬よりあふ杜終
あふまひ有り不気時を
聲先をききしをわく申しき
終流ありや水終望山あり
号をききしを意や時を

玉馬 和鶴 千里 如竹 花道 梅宿 思雲 思清 抱清 竹苗 思文 松月

河の橋の籬よりあふ杜終
あふまひ有り不気時を
聲先をききしをわく申しき
終流ありや水終望山あり
号をききしを意や時を
他月あり無由や華はあらしき
和のりは枝名ありしは流しき
世は火の如くも燃えきや杜終
暮る管の今も身ぬれや時を
如哉川月峯よりあふ時を
およまや島と地の方時を
山の端より月にあひて杜終
河の橋の籬よりあふ杜終
あふまひ有り不気時を
聲先をききしをわく申しき
終流ありや水終望山あり
号をききしを意や時を

方水 巨石 花夕 旦鶴 梅雅 聽雨 猶蟻 云亭 蓮州 全竹 竹詞 左丈



〇々

十五

鳥の歌は三月の春の夜に
 竹堂の影を照らす時
 春の光は傷を癒す時
 淡水の流るるは静かな
 遊歩の足音は静かな
 旭の本は静かな
 一聲の響きは静かな
 大喬の影は静かな
 空の鳥は静かな
 等裁の影は静かな
 文岱の影は静かな
 梅年の影は静かな

鳥牙
 竹堂
 春澁
 淡水
 遊甫
 旭の本
 一聲
 大喬
 空狂
 等裁
 文岱
 梅年

糖舌去
以 志

初醒味ふ中々かあろろ
軍古香 佛の山子 埋道ろろ
余の香い程ぬ下程ぬ布敷
香ゆふの香る下坂ぬ軍古香
軍古香物もまきかろろ
日のある木ハ輝ひたり 軍古香
とる程々香茶葉の中ぬ 軍古香
妙の家を生ぬろろ 軍古香
却りぬけろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香

永機
丹霞
詢葉齋
鶯雨
如牛
貞砂
竹葉
鷺朝
晋泉
華谷
其仙
芦明

軍古香

初醒味ふ中々かあろろ
軍古香 佛の山子 埋道ろろ
余の香い程ぬ下程ぬ布敷
香ゆふの香る下坂ぬ軍古香
軍古香物もまきかろろ
日のある木ハ輝ひたり 軍古香
とる程々香茶葉の中ぬ 軍古香
妙の家を生ぬろろ 軍古香
却りぬけろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香
香いぬろろぬろろ 軍古香

大喬
此鼎
里發
如竹
壽守
三芝
貞山
全
梅年
乙義
古遊
貞賀

坂

星の身に照山見下、輝の勢
深のや、露のささる、雪の影
輝の勢、ささる、影のささる
霞の、ささる、影のささる
大雨の、ささる、影のささる
霧の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる

泰嘉 松翠 雲朗 蛙水 梅宿 三千代 巴郷 青山 春澁 磯春 渭水 雲雀

坂

坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる
坂の、ささる、影のささる

三俵 貞雄 雪朗 九岳 竹葉 梅佐 壽守 半山 壯山 竹華 二光 鬼笑

聖
院、白紙
海、水

聖を思ふ心や唐はくし一はを
院はくしあり文や院のまき
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの
院はくしを不足するもの

曉臺 涼坪 葛三 淡水 梨雪 聖主 三石 鷺朝 晉泉 牧水 鳳樓 思雲

更衣

給

初の字は魚の形の日や文衣
出歩けし人の多きや更衣衣
二つありて半着る給可也
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可
お出たまふもつは法き給可

言海 里發 詢堯齋 晉江 百汲 月得 紅蝶女 雪襄 猶蟻 一大 山水 鷺朝

秋景



宿老の如
神上七重の山王
時を去る如く
賑給

高僧の如く
賑給の如く
賑給の如く

素水
木寶

六月と新

六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ
六月や月を撫ぬ者物ゆ

蕙畝
壯山
一遊
三千代
松月
一大
鳳朗
敏樹
玉馬

早苗月

早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く
早苗月の如く

大津

近城よりて敷津かき津より
白砂の樹子 影法師の津川
をくくく津より 津の石を隠し
角生る 影法師の石を隠し
こち向て津川の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
人より隠し 影法師の石を隠し
麻の石を隠し 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し

蓮州 連水 碧海 花夕 來杖 一大 千里 梅年 竹堂 山水 竹葉 ちん

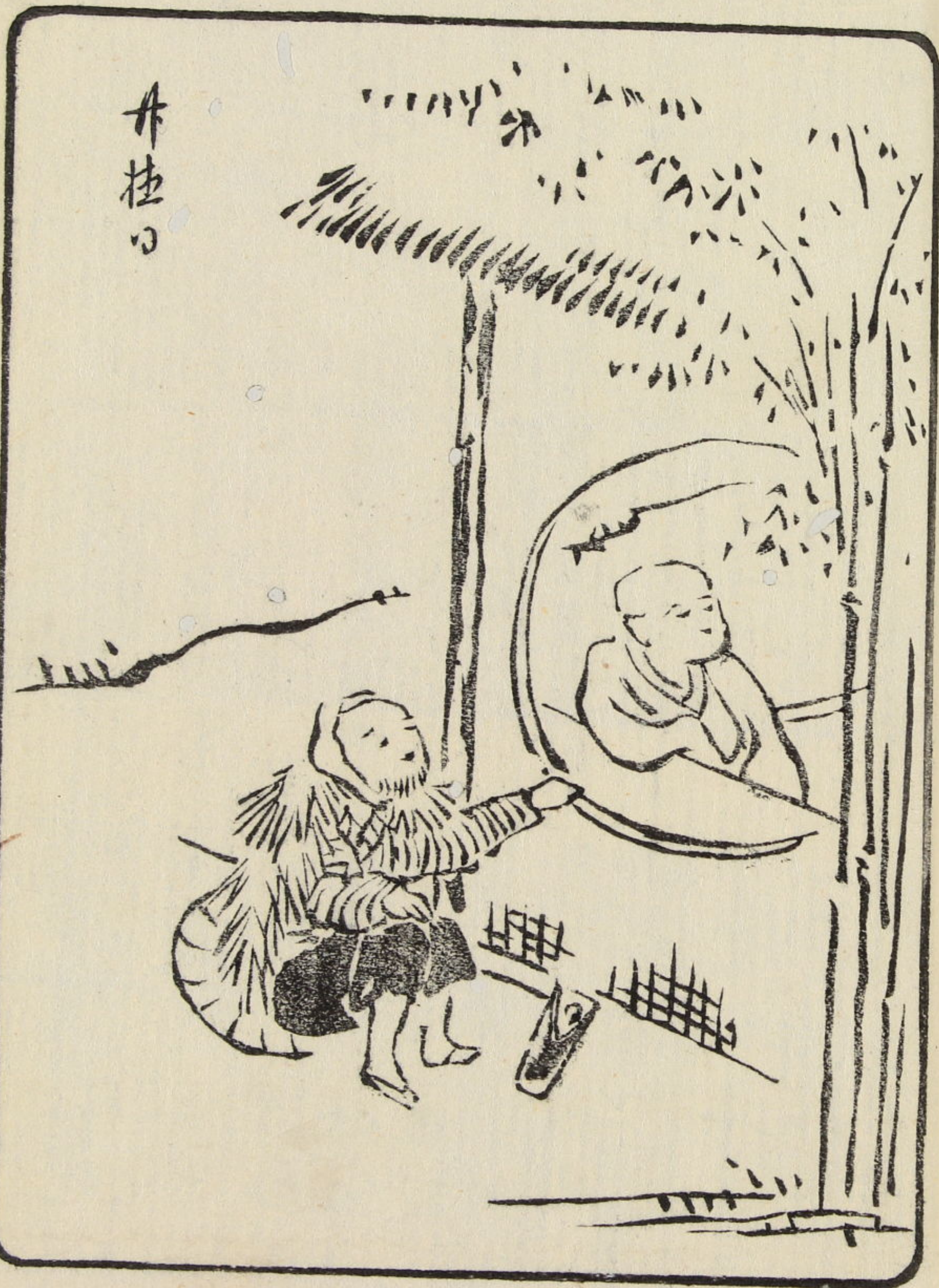
大津

きみこれ

伊吹山の影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
きみこれの津より 影法師の石を隠し
此の津より 影法師の石を隠し

古梁 一大 山邦 晋江 思文 如竹 壽守 一聲 碧山 晋泉 喜延 梅成

井極日



〇文

二十七

紫陽花

井極日

早乙女の勇まじや 常士に豊男
 早乙女も春を 終住まるとありや
 早乙女や月石調一舟の極
 早乙女の竹やさけや、あつは月
 桂子出ぬ早乙女のうなわらうた
 早乙女や、はわあは早乙女、うらうら
 極付く一表、井の極き先
 井極をわらひの極や、雨の音
 井極を早乙女、早乙女、料、早乙女
 紫陽花の、紫陽花、極、早乙女、先
 紫陽花、早乙女、極、早乙女、雨

袖 九
 芝 水
 機 一
 機 月
 梅 年
 永 機
 古 朴
 古 朴
 玉 遊
 梅 宿
 其 石
 吏 中
 壽 谷

石挿花

竹蘭

梅の心

紅の心

山撫子

緋扇

程の日の推の子降る雪の枝

石挿花のや夏の院の五六町

石挿花のや峰の子のさる雲の枝

石挿花のやえのさる水けの枝

竹蘭のや名をさる水けの枝

竹蘭のや名をさる水けの枝

梅の心のや梅の心の

梅の心のや梅の心の

梅の心のや梅の心の

梅の心のや梅の心の

山撫子のや雪の枝の

緋扇のや雪の枝の

三州

永機

指直

里發

鶯笠

碧海

其水

逸風

二樵

良和

永機

舞巾

可金

実梅

実梅

枇杷実

実

こんりり実梅冠さるる尾の

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

実梅の落るる音のり枝の危

涼風

淡水

遠塵

山水

袖丸

青山

壽谷

竹香

華谷

巨石

春湖

五休

山 蕎
 半 山
 二 光
 梅 年
 蓮 州
 素 朴
 自 唱
 碧 海
 霞 汀
 空 狂
 梅 誓
 三 升

後

新樹

木下

山蕎 岸の柳や青
 山 蕎
 半 山
 二 光
 梅 年
 蓮 州
 素 朴
 自 唱
 碧 海
 霞 汀
 空 狂
 梅 誓
 三 升

連 水
 雨 江
 永 機
 青 曉
 竹 葉
 可 朝
 雪 霍
 清 川
 連 水
 雪 簾
 奇 英
 壽 女

今年

連 水
 雨 江
 永 機
 青 曉
 竹 葉
 可 朝
 雪 霍
 清 川
 連 水
 雪 簾
 奇 英
 壽 女

山 菴

山菴やまのたれ新海は海色

猶 蟻

山菴やまのたれ新海は海色

碧 海

山 浜

山浜やまのたれ新海は海色

永 機

枝 桂

枝桂やまのたれ新海は海色

言 海

枝桂やまのたれ新海は海色

古 杉

枝桂やまのたれ新海は海色

奇 英

枝桂やまのたれ新海は海色

溪 叟

枝桂やまのたれ新海は海色

可 朝

枝桂やまのたれ新海は海色

雪 朝

嘉 室 彦

嘉室彦やまのたれ新海は海色

自 唱

嘉室彦やまのたれ新海は海色

鶯 笠

祇 園 舎

祇園舎やまのたれ新海は海色

花 晴

祇園舎やまのたれ新海は海色

朝 暉

祇園舎やまのたれ新海は海色

真 海

祇園舎やまのたれ新海は海色

尚 九

祇園舎やまのたれ新海は海色

螢 花

祇園舎やまのたれ新海は海色

壽 守

祇園舎やまのたれ新海は海色

猶 蟻

祇園舎やまのたれ新海は海色

碧 海

祇園舎やまのたれ新海は海色

晴 月

祇園舎やまのたれ新海は海色

春 喬

祇園舎やまのたれ新海は海色

月 得

祇園舎やまのたれ新海は海色

寬 遊

席 雨

〇 亥

三十五

前文ありぬ

夏草名

鳥羽磯

仲佐

後暑に山鼻の河に夏草名
 羅りし女仕多や夏草名
 杯を此に河に志つる夏草名
 子にたてし子月より川夏草名
 若くは夏草名之なる鳥羽磯
 河橋と名や川人只たうた
 一若くは川に前々河橋
 夕暮や河橋の人月夜の
 秋霞千の清き草の橋
 形代やわたりし毎の川橋
 若くは川に夏草名

ムサシ

完 來 春 湖 梅 年 儿 董 茶 城 巨 石 鳥 牙 其 仙 如 山 雪 潮 全

川社信の報知す是よりぬ

七月三日

夕月

水月

七夕

夕月の影や海に下りて
 夕月の影の時を待つて
 夕月の影を待たし付く秋の虫
 夕月の影を待つて川の風
 夕月の影の人を待つて川に
 夕月の影を待つて川の星
 夕月の影を待つて川の
 夕月の影を待つて川の
 夕月の影を待つて川の

永 機 素 槩 鳳 樓 喜 延 鶯 笠 壽 守 秋 色 芝 水 鶯 雨 松 民 予 雲

お用

天の川

天の川
星合の月夜折く魚の身
生けし草の影の夜花二葉
踏る程露の玉ぬれたる代小袖
うけよまはあまのさくらぬ影の
花の葉にまゝにさくら影の
ゆりゆり折るの日はるの川
ゆりゆり折るの日はるの川
ゆりゆり折るの日はるの川
ゆりゆり折るの日はるの川
ゆりゆり折るの日はるの川

浪花

蓮州 遠塵 尚九 里發 竹茁 文岱 蝸堂 來杖 螢所 竹堂 永機 流美

雲 乙

日 寒

秋の鳴る山城足より土用うら
春のゆくあきさきとてまは土用
折のゆく風よりうら土用
一枚の羽折るは土用
あまは土用をまはる土用
星の二花あきさきとて土用
あまは土用をまはる土用
風よりうらあきさきとて土用
春のゆくあきさきとて土用
あまは土用をまはる土用
あまは土用をまはる土用
あまは土用をまはる土用

猶蟻 如牛 梅伍 敏樹 月得 護靜 晉江 月荷 悟秋 三津人 黙平 遊甫

お水
雨乞

夕立

日暮りや水邊をくぐり橋の上
お水お礼にけりや響き清か
雨乞不意に我流をくや樹の枝
乞違し雨に流るる伏草に
夕立の波をくぐりや門柳
夕立は臨海しけり小島に丸
夕立を思ふに掃出さる口が
夕立のそねは、あはれ梅の魚
夕立や春を思ふありし時共
お面の思ふに、おやあゆみくら
夕立や夕立もあはれあはれ
夕立や夕立もあはれあはれ

螢花
芦吟
涼坪
永機
黙平
碧海
孤月
山邦
柳僊
聽雨
晋泉
一聲

夏の雨

夏の月

露をこのねもあはれ夏の雨
夏の雨造化かきく晴にけり
露をこのねもあはれ夏の雨
降きぬ一粒くや夏の雨
急降の雨の葉をくや夏の雨
お教の雨あはれとや夏の雨
梅をこのねもあはれ夏の月
秋をこのねもあはれ夏の月
石山の秋をこのねもあはれ夏の月
夏の月梅をこのねもあはれ夏の月
何よりあはれとや夏の月
夏の月梅をこのねもあはれ夏の月

梅伍
欽守
其石
華谷
二樵
暮牛
雲臺
梅宿
遊甫
如牛
三猿
云亭

晒井

森ありと魚つねなりと井ぬ人
自らの子孫いん人并婦人
ある森を乳と志らば井ぬ人
片や井の中を穿つる青のあし
晒井や亭しとせし魚も人
きり井に並ぶるやや銀梅
ゆきりてんてん走る門田ド
玉情の海きりてん走る田林
赤のうね青田中にて一羽
手不を梅しとせし田の戦きり
風をきりてんてん走る田林
きり梅の又もやうの走る田林

千哥女
一遊
一雄
蓼太
霞香女
永機
可成
蛙水
月歩
柳僊
古梁
雪潮

青田

田村

湖の形うり入込る青田可奈
笠の横のやうな遊う二番茶
善教の息を供りて田茶取
草をうりてんてん走る田林
松葉のうりてんてん走る田林
善教の息を供りて田茶取
川端の梅しとせし田の戦きり
海見ゆりしけりてんてん走る田林
板のうりてんてん走る田林
松葉のうりてんてん走る田林
能つりてんてん走る田林

溜水
蝶夢
善秀
蛙水
琴松
孝節
丸岳
里發
荒奸
機月
雪覆
山水

竹の玉
松麻
蓮

夕清の光りたるにたゞくふき、能
 意ありしは、色りりしや、松の玉
 竹の玉に、縁き、八の、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉

枝玉女
花夕
永機
花夕
涼風
巨石
素粒
此鼎
碧海
三升
蕙畝
奇英

玉松

松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉
 松の玉、松の玉、松の玉、松の玉、松の玉

可洗
琴松
遠塵
其石
萬年
花由
晴雲
梅年
小谷
奇英
芥剛
松左

二、廿三

しちご



招 茅	百日紅	夏 州	烏 藏 約	精 約	仲 繪	一 表 酒
露 流	完 來	蓮 州	静 和	二 光	花 晴	逸 風
魯 水	才 雄	惠 五 女	霞 流	雪 襄		

露流 魯水 完來 蓮州 才雄 静和 二光 花晴 逸風 惠五女 霞流 雪襄
 露流 魯水 完來 蓮州 才雄 静和 二光 花晴 逸風 惠五女 霞流 雪襄
 露流 魯水 完來 蓮州 才雄 静和 二光 花晴 逸風 惠五女 霞流 雪襄

〇夏

甲六

水香

交ぬりて年々手際や水きりぬ

菟好

清い

人の暮れ宿に掃除く水香

碧山

人の暮れ宿に掃除く水香

竹詩

下をくし水きりぬ

竹葉

ゆめゆめやゆめゆめの清い

等裁

昔水

昔水に鏡くす、鏡くすの影

蕪村

昔水に鏡くす、鏡くすの影

竹花

埴鉢

おのいし時のゆめゆめ埴鉢

才雅

おのいし時のゆめゆめ埴鉢

霍齋

鏡子

鏡子のゆめゆめ鏡子の影

金羅

鏡子のゆめゆめ鏡子の影

雪潮

上り下り

おのいし時のゆめゆめ埴鉢

五濟

川

川せきや若き水は川の影

うろく

船

川原や船けの暮れ川原

里發

夕

夕やけのゆめゆめ夕やけの影

碧海

舟

舟のゆめゆめ舟の影

一遊

舟

舟のゆめゆめ舟の影

巴郷

青

青のゆめゆめ青の影

永機

青

青のゆめゆめ青の影

梅雅

梅

梅のゆめゆめ梅の影

涼風

梅

梅のゆめゆめ梅の影

可洗

梅

梅のゆめゆめ梅の影

永機

梅

梅のゆめゆめ梅の影

全機

今所中	夏却	狸抱	狂	过う花	簾	知麻
露と心は情のわづらひに取らるる	露のたの草ももよほすは原中	兼和田北段ももよほすは原中	狂の狂子通うや	夕陽のお年あたりは	夕陽のお年あたりは	海ももよほすは原中
秋九	芦洲	永機	三學	可金	應波	春湖
			關更	燕村	對山	尚九
			一遊			

夏殺	川物	不二流	蛇巻	了於羅
夏殺の夏ももよほすは原中	川物城の夏ももよほすは原中	不二流の夏ももよほすは原中	蛇巻の夏ももよほすは原中	了於羅の夏ももよほすは原中
尚九	一大	雪潮	五休	暮牛
鳥牙	鬼笑	收之	芥刪	雪朗

夏 雜

送り公也直を以て禁ては	猶 蟻
秋の直に秋いふくく	素 直
大なる直より一草花の禁	等 裁
やうく思ふ所はるの秋や	永 機
高より秋あるやうく	月 渚
その中の時日付く	悟 秋
秋の直に秋いふく	芦 洲
秋の直に秋いふく	牧 水
秋の直に秋いふく	喜 延
秋の直に秋いふく	淡 水
秋の直に秋いふく	梨 雪
秋の直に秋いふく	醉 甫

大文字

秋の直

亦サ

秋 隣

發句五百題夏之部 終

思ひのくく思ひのくく	正 義
秋の直に秋いふく	老 鼠
秋の直に秋いふく	湖 十
秋の直に秋いふく	蓼 太
秋の直に秋いふく	完 來
秋の直に秋いふく	梅 年
秋の直に秋いふく	永 機

芝 浦



